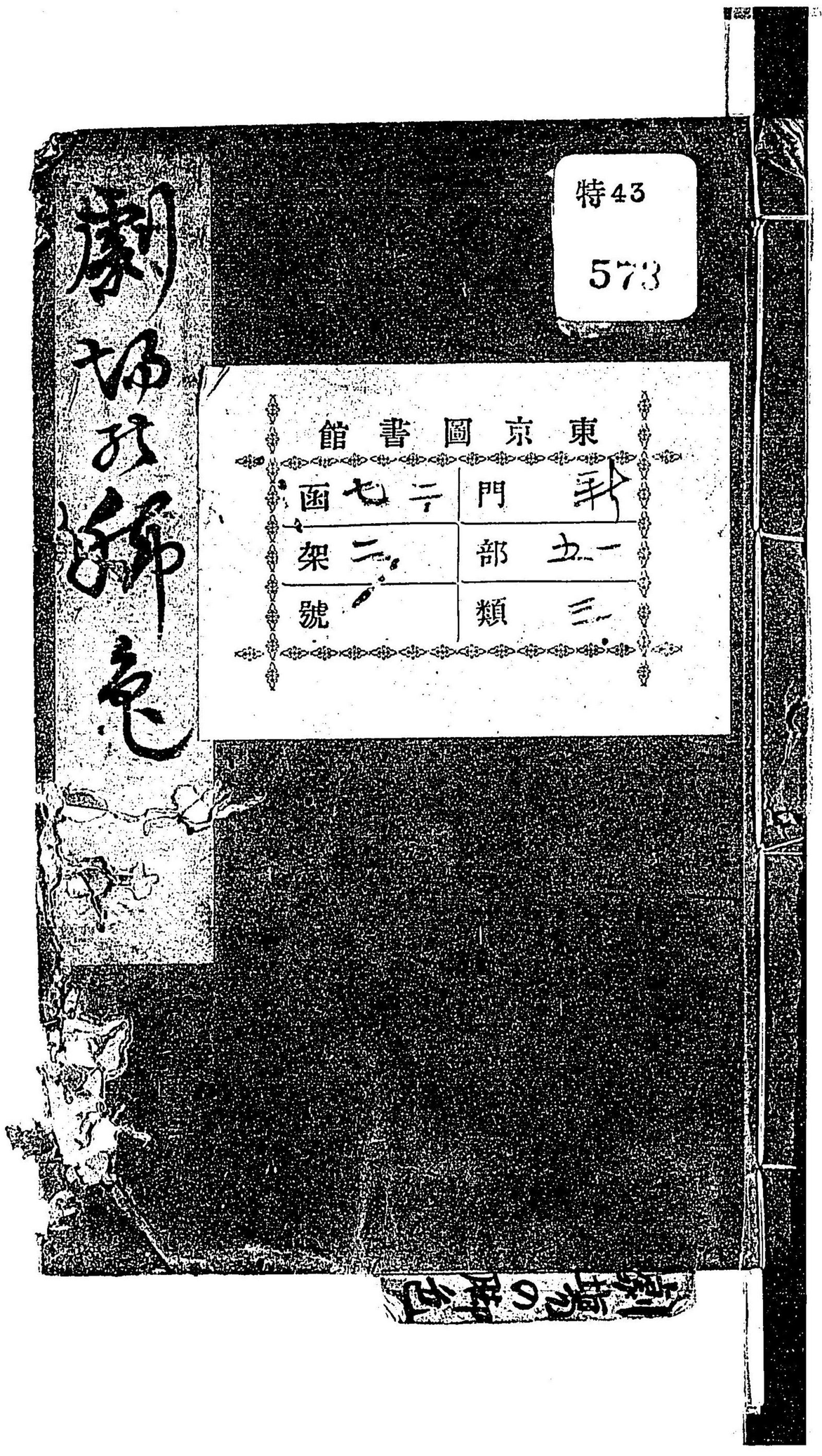

劇場改良論
東京圖書館
函 七二
門 手
架 二
部 一五
號
類 三
特43
573

特43
573

當見 [illegible] 戎座[illegible]書の紐

近委 [illegible] 全一冊

浪花[illegible]戎座の芝居[illegible]

らいごう かじやり ムそひそでん

[illegible]

前[illegible] 表従

[illegible]

つなぐさかげどろ きぬずへ

切 [illegible]

[illegible]

特67
484

○（頼豪阿闍梨勘傳）（大序）旭將軍木曾義仲館の場にて幕明くと大將義仲（坂東喜津三郎）戰鬪の功を誇つて恣ゝに我意を震ふ處○爰に京家より猫間中將光隆（浅尾浅六）來り義仲の道なふぬ所行を諫めると只慮の義仲（喜津三郎）怒ッて其信義と聞かず却ッて光隆（浅六）母悪口雜言なして終に光隆と亡さそより倍〳〵我意を震ふ處爰に義仲の臣下石田爲久（市川團治）い奸知深き者ゆへ此盛に乘ド て悪計と巡らし鎌倉の大將源頼朝に通ドるより義經範頼の兩將をッて義仲を追討さすゝに於て木曾い一類遂に滅亡なす段が此狂言脚色の緒ぐちにて幕

○（二段目）武藏國入間川唐糸隱家の段爰に木曾義仲の嫡子冠者義高の乳人唐糸（坂東太郎）ハ琴三弦の指南となー入間川隱れ家に忍び居て冠者義高（嵐橘三郎）を態ト我子大太郎の姿に幼なひ時より養育ゐー時節を待て再び木曾の旗と揚させんと忠節と盡す處○ゐ〳〵ゐ木曾の忠臣小太郎行氏（實川厂正）ハ女房樓橘（實川正朝）（此のかけ橋ハ唐糸の姪い）と共に唐糸の實子大太郎を取替へ子の冠者義高（坂東喜津三郎）と知らず大切に供ーて連ゐ來る處へ奸人石田爲久の家來堀江藤次（坂東太喜五郎）が追手に來り嫌倉方の屬命なるゞと義高の詮義をゐをにより女なゞらも忠義の唐糸（坂東太郎）ハ態と我實子なる僞の義高（喜津三郎）の首を討て追手ゐ渡す丈夫ハ魂ーひ彼千代萩の政岡より一層勝る見處なり○爰へ石田の爲久（市川團治）が首級寶蹟ゐ來るを幸ひに唐糸より石田に組せんと謀れども邪知深き爲久一應ゐ聞ゐ入れざるより遂に忠臣の小太郎夫婦（厂正正朝）を毒殺ーてィロ〳〵横道ある返り忠になりしと石田に心と綴さー鎌倉なる頼朝の舘へ入込さんと計る場ゞ朝の内の見所此狂言脚色の根元の當て場にて幕　皆さんお早く入來シャイ

○（三幕目）ハ日枝山の段ゐり爰ゐ木曾の冠者清水の義高（嵐橘三郎）ハ亡父義仲の殘念と晴さんと廻國修行者と姿をやつー諸國と巡る內談の日枝山の籠ッテ斗ふさも頼豪阿闍梨（坂東太郎）の神靈ゐ出昏ひ怪鼠の奇術を讓ゞ受々る此一段ハ紀の字屋と伊丹屋の兩達者が實者の魏くふゝ怪ーやァーの大ドロ〳〵義高ゲ一疋

の夢ゆて奇異の思ひをなを此道具返ーゆなると粟津ゲ原浪際い場爰い西行法(郎中村冠十郎)が壽命の龜の殺さをると救ひ價に代へて頼朝公より拜領せー寶物の銀猫を以て龜と換へる該所へ猫間の一族同苗光實(嵐三五郎)來り讃高(橘三郎)爲久(團治)女婿頭於竹(正朝)等に出會ひ互ひに闘闘の立廻りにくゞ、銀猫い光實の手ゆ入る脚色にて幕

○(四幕目)い嵐山竹川正忠浪宅の場爰ゆ猫間家の忠臣竹川正忠(太郎東)い主家の減亡より次弟に零落して貧若母迫ると雖も古主の後室八重垣(逸尾よーの)と大切にうくゆふ内後室い重き病ひと煩て苦痛大うゆあゆさると正忠が日夜苦勞母ーて早く治させんと良き藥と購ふにも書財あく困る庭訓と女房の葛戸(嵐橘三郎)が推量ーて乳の有るのと幸ひに仲人の世話に依て秩父家へ乳人に雇ゆれ其給金を前借ーて良藥と調へて下と思ひ立ゆる忠義の一念云明ーてい老母の心配ゆレより イッソ智惠松(嵐璃橘太郎)ニト被の金我子の巾着へ入をゆ偸其次第を書置シテなごり惜くも秩父家へ奉公に行く旨ゆ別をい婚女子の氣も伊丹屋の橘三郎が

例の小手利器用な仕打看客涙母ひ。ゆ給ふな○扨跡ゆ殘ゆし毋刀自(冠十郎)い盲目ゆへに思ゆずも折角借ゆ給金を川へ流ゆ失ふ「夫をとい知らぬ正忠(太郎)が是非入用の金乃才かく戻て聞けば女房か若勞を厭ゆず奉公ーて折角借ゆ給金を紛失しゆの是非もなやト口惜のるを老毋(冠十郎)が推量ーて其言譯に自害し く果たるゆへ正忠い身の不運ゆ歎き如何なぎんと當惑する處い忠義に凝ゆる世話狂言親子の別れ妻の貞操一日の間ゆも別て該場が實のある暮蛇ト評判蛇〳〵

○〔五段目〕い重忠本陣明外の場ゆり却説竹川正忠(坂東太郎)い後室の重病を早く平愈させんと種々心と盡ーて介抱なせども頓と良き藥の功驗も見へず遂ゆ八重垣い空しく成り果る○是ゆよつて正忠(太郎)い智惠松(嵐璃橘太郎)と云ふ一子を連ゆ旅商人と成りて手遊び物を諸所へ賣歩行間富田の宿にて秩父の庄司重忠の本陣の前と通行をゆ思ひがけゆく女房葛戸(橘三郎)毋巡り逢ふ此道具廻ると重忠旅館庭先の場ゆて秩父の重忠(市川滝十郎)い途所なごら正忠ゆ看て猫間家の

忠臣なる事を知と仁心を以て猫間の敵さなる清水の冠者義高（楠三郎）の役の怪獣の術とくぢくゝ寅の年度揃ひし親子の血汐と用ひて斯くと語るゝ依り幸ひ竹川正忠親子ゝ寅の年度揃ひし生れゆへ速のに兩人とも自殺して古主の仇さ義高の奇術と見顯さし我が本意を達せさせたさへと血汐と重忠（瀧十郎）に取らす竹川父子（坂東太郎）（竹川太郎）忠死の段ゝ殊に（太郎）ゞ演藝の見所であります

○（六ッ目）莊柄の天神境内の場コテ元木曾の謀臣石田の爲久（市川團治）ゝ左府頼朝公に睨ひてより恋ひゝに我意を震ひ倍く我儘となす所爰へ秩父の家臣榛澤六郎（嵐三五郎）來ッて爲久を懲を此道具返しゝゝ諸越ゞ原非人小家の段爰に木曾の嫡子清水の冠者義高（楠三郎）ゝ假ゝ非人と姿と替へ野伏せりト成ッて居る所、頼朝の息女大姫君（賀川兒朝）ゝこの義高と言号けなるゝ木曾義仲亡ひてより義高の行衛知れずと聞さび毎々戀しくなり遂に病の床ゝ臥故ゝ庄司重忠ゞ智計と以て家臣榛澤六郎（三五郎）に内を示し非人の義高を謀ッて鎌倉の御所へ

連れ歸へらさんとせる處義高（楠さぶ）も兼て鎌倉御所へ入込宿意を達せんと謀る折柄ゆへ幸ひの事と悠然としく心ゝ悦こび迎の駕に打乘りて營中へ入込む處ゝ（榛澤と瀧高が）互ひに心の謀り合ひ大層立派ゝ幕切なり

○（大結）鎌倉營中の段華麗ゝ道具廻とゝて幕明くと非人の義高を種〳〵ゝ雲隱ゝすとゝろ該馳走役ゝ秩父の庄司重忠（瀧十郎）にて兼て頼朝公よりの内命に依て計策を以て義高の足と止め留其動靜を試さ處爰へ乳人母糸の舍弟今井の兼若（坂東太郎）と呼ふ者ゞ狂言師と偽ッて當營中へ入込と頼朝を打殺さと謀る折柄思ひつも冠者義高ゝ對面ゆへ過去咄より互ひに心腹を明しイヨ〳〵大義を企ざてる該道具廻ると別館高樓の場該所へ石田爲久（市川團治）ゞ來ると待受けゝる。今井兼若（太郎）主君ゝ仇せし惡人石田覺悟シローと殺害ナス又道具替ると奥庭の場で義高（楠三郎）ゝ頼朝を討んせーゞの早ゞ秩父の重忠（瀧十郎）か智計に依て露顯なし多勢の人數に捕りてまとしが流石の義高（楠三郎）頼豪阿闍梨よと讓と請さる

怪鼠の奇術と以て皆殺しにあさんと爲ゑ〻ども兼〻重忠が秘藏せし竹川正忠親子の血汐を以て術をくゝられ其上猫間光實〔嵐三五郎〕が持出たる西行法師が所持せし猫の奇特に依く義高が大望成就ならざるゆへ拳を握り歯切ばッて終に今井の家若(太郎)と共に自殺あす爰に於て木曾の殘黨一時に亡び忠臣の功益々顯れ鎌倉天下太平に納る仁義忠孝勧善懲悪の脚色い例の勝能遊さんが作意の新案時代せりふの金襖に世話を交ゑる增補狂言殊に〔坂東太郎〕が初舞臺一當今及び看もので有まを　東西〳〵是より判の妻累彌〳〵切狂言の脚色書始とサヨ――

褄累解脱の絹川　上下　二滿久

○〔上の巻〕垣生村與右工門仕家の段爰ゑ絹川與右工門〔橘三郎〕い女房累(太郎)い惡しき病の爲に面体見にくき姿トゆれど夫與右工門い兄豆腐屋の三夫〔瀧十郎〕が頼ミを守ゑかさね(太郎)に鏡と見せる事と堅く禁ゑく惡相ある事知らさゞ睦ゑ〻く暮す門該の與右工門(嵐橘三郎)が古主の事にて是非入用の金の心配其の苦勞をのさね(坂東太郎)が見兼我が惡相と知らゞッテ其身を吉原の廓へ賣らんと花扇屋才兵衛(瀧十郎)判人源六(團治)に語る。源六い持合せの鬢鏡ゑて其惡相を知らせ。○是より先與右工門が古主伊達家の若殿ト豫て言号々ある山名家の息女歌うゑ姫(實川正朝)い若殿政の助を慕ひ家出なして此下総の絹川なる與右工門が仕家を尋ね來る(姫の來かけの事)。姫姿を曲鉄の金五郎(中山文五郎)と呼ふ惡者が見附々姫とかと思のさんと邪智を巡らし。女房累が吝氣深きと知ッて與右工門の留主を伺ひ「アノ歌うゑ姫いお卿が亭主與右工門殿の隱し妻シャと告るゆへ女房累へ(太郎)裏と思ひ忽ち嫉妬の念發し歌形姫(正朝)と亡ものゑせんと憤ふる段ゑく幕

○〔下の巻〕絹川堤土橋の段却説絹川與右工門(橘三郎)が隱まふゑる歌形姫(正朝)い世を忍ぶ身の上もへ古主の官號けなる姫君なりとあらさゞゑ女房母も言聞せ難く其儘置々〻累が吝氣の恐れもあをば別るべの方へ頼けんト夜中お歌

形姫と連れ行途中かさも(太郎)ハ嫉妬の一念にて姫(正朝)を殺さんとあす母伝
ヒ。與右工門(橘三郎)ハ心を砕き種〳〵と説得なせども一圖に憤りし女の執念イ
ツカナ事に聞入れざるゆへ余儀なく威ーの爲に白刃を抜さーゞの過ッ累(太郎)
が危所へ當り無惨なる最期をなす其死靈の祟りさびーく遂ひに出鉄の金五郎(團
治)を取殺すより其頃の道徳者祐天上人の功力をいと累が怨念解脱せり。ハ早替
ヒにて船頭乗切鶴吉(二役坂東太郎)來り三夫(瀧十郎)と共にかさねが苦堤をする
より與右工門(橘三郎)が忠顕を悪人亡びて善人愛度昌盛る脚色久し振で兩
ト達者ゞ互ひに藝の花くらべ殊に這船ハ諸方れ新聞紙で(太郎の評判が)多ハ上三
十日の乗込で頗る人氣ゞ強いもへ必定面白ふ演り滿正ト例の筆癖餘慶ナ告條
目出度打出し評判ジャーく

狂言作者 近松八十翁 近松時壽 竹柴能 振附 九山村 助 蔦間竹遊 長歌 花房卯の丸 三弦 坂東兵吉 進

狂言の〻 近松八千助 奈河逸作 淨瑠璃 竹本君大夫 三弦 鶴澤多見太郎 出來島喜兵衛 頭取 尾上友助

太夫本三河吉

當ル狂言 劇場の脚色戎座筋書の部大尾

明治十一年五月卅一日出版御届
同 年六月 六日刻成出版

大阪府平民 華本安治郎

編輯兼出版人

第二大區九小區難波新地二番町八番地住

(定價三錢五厘)

○中の芝居 すじがき 二の替りの部(二錢五厘) 當り狂言劇場の脚色の内 此本を近世櫻門記録○都鳥なゞれの白涙○三都名所寿眞粉大序 結局まで皆解と升

○角の芝居 たゞみ 二の替りの部(二錢五厘) 高根雪 伊達實記 三人吉三廓初會 されも矢張當ん の内で看た客に 利ふなる頗る面 狂言劇場の脚色 見ん人よも便 い本あり

檜連集評立本(三錢五厘) 全壹冊 角力芝居二の替りの藝評と 集め三府の見功巻の助考たる 古今無類新趣向の評判記也

○同役者評判記 矢張活版摺の美本也

新版發兌廣告

大政官第八號御布告　中丸木訓點
株式取引所條例
かな附　白紙摺　中本全一冊

大藏省甲第拾三號御布達
起業公債發行條例　假名附
証書　西洋綴　中本全一冊

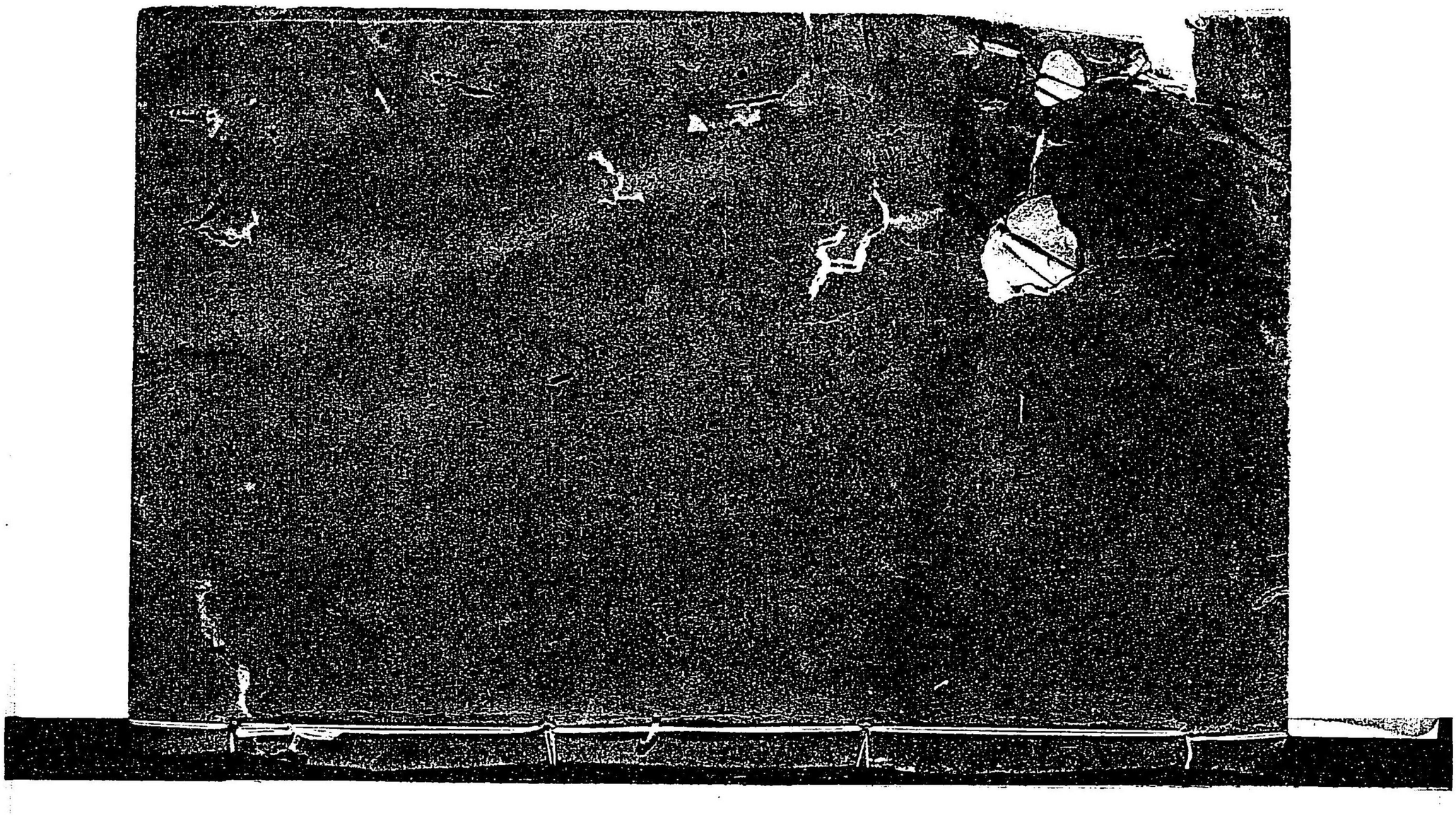
右ハ諸君便用の爲メ輕便ニ致シ近日出版仕候間便宜の地ニテ御求を乞

中の芝居　役者評判記　全一冊

此度ハ東京見功者連の外に皮肉連の奇書も有又例の檜連の極面白い珍評もある眞に俳優の穴さゞ一本也江湖御待兼の雅君御最寄の本屋書草紙屋ニテ御購求下され

浪華道頓堀　芝居茶屋　（尾張屋泉正高砂）（版元同價　心齊橋筋貳丁目　進取活版社）（大吉稻竹大入）（同八幡筋東ヱ入　玉置清七）（湊屋近安西鶴）（大取次所　堂島中壹丁目　井上靜雲堂）

賣捌所大阪ヤ町岡島○道修町藏屋○吉岡新聞店○心齊橋通紙屋○市本爲阿波文○日本橋南本安○富士政○私○御堂前坂○梗屋○同横根花木屋○同穗○金橋亦○畳町山本與○平野町石和○新町西田ヤ○德○ヨシ福田店○千○南歌久○日前中忠○戎橋北詰京政○新町彩場豐伊○清水○心齊小川新○ダンシン島○内大清○京にしあり西○平野町本傳○横濱守屋藏○名古屋○同四條通報恩社○西京大田○同竹屋町坂○同四條通大谷○東京江島屋平○神戸日弘堂○大庫湊町金港○北住吉○同阿部○馬關龜屋半七○博多中嶋藤井○熊本鹽屋町水嶋○長崎似文會社○廣島中町吉田○松山同藤店○岡山下町岡源○廣島中島柳川○山口宮川堂○多門通清水瀧○同元町弘讀社○姫路俵町伊知栗尾同澤本○和歌山集成社○伏見京町大西○名古屋本町栗田○岸和田本田慶○岐阜欽風本舍○土肥同玉井○金比羅沼田店○德嶋坂井萬吉○高○甲府常盤町内藤○靜岡本町青木○大津澤宗二郎○鳥取大工町横山○須本福浦文藏○堺集廣舍

此外全國中何方の本屋繪草紙屋にも御坐候

華本文昌堂